前回、台湾では割り勘をしない習慣を「長い時間をかけて貸し借りをし、つきあう仕組み」と紹介して、日本でも同じ仕組みがあると書きました。例えば、冠婚葬祭のお金のやりとりがそうです。同じ金額等をすぐ返すわけではなく、次の機会まで貸し借りの関係が続きます。外国の不思議な習慣にも自分たちと同じ要素があるのです。

さて、ネパールのフンレリ族には、兄弟がひとりの女性と結婚する一妻多夫婚制があります。授業でこの結婚を紹介すると、多くの学生たちから「兄弟全員に愛情を持てるのだろうか」「恋愛結婚がいいです」という感想が出ます。恋愛を経て、愛し合っている二人が暮らすのが結婚の目的で、それ以外の結婚は正しくないと感じているのです。

しかし、日本でも結婚した時のような感情を持ち続けるのは大変です。「好きな人と暮らす」という想い以上に生活する現実があります。お金を稼ぐ、家事を切り盛りする、子どもを育てる、病気の時助けてもらうなど、生きるために助け合うという「結婚の意味」が、日本でも見て取れます。実はフンレリの人々は高い山に住んでおり、耕す土地が限られています。兄弟がそれぞれ結婚すると土地が足りなくなり、生きていけません。限られた土地で生きていくために兄弟全員が一人の女性と結婚するのです。生きていくために必要なものを確保し、互いに関係を築こうとする点では、日本もフンレリの結婚も同じ要素があります。外国の不思議な習慣にも自分たちと同じ何かがあり、外国人は決して異星人ではないのです。

次回はフィリピンの話を広島大学の関恒樹先生にしてもらいます。

文：県立広島大学　上水流久彦　講師
イラスト：県立広島大学　ロナルド・スチュワート准教授
2012（平成 24）年 広報あきたかた 7 月号掲載